患者の行動変容に繋がるメインテナンス

高橋　規子
高田歯科

抄録
2007 年、日本は超高齢社会に突入した。今後も高齢者率は高くなると予測されている。歯科の分野では、1989 年より当時の厚生省と日本歯科医師会が”8020 運動”を提唱し、2016 年までに達成率は５０％を超えた。しかし、ただ歯を残すということではなく、その先にある健康な高齢期を過ごすことが何よりも大切である。
現在、厚生労働省から発行されている健康寿命延伸プランでは、1 年に 1 度以上の歯科検診を受ける者の割合を 65%以上に引き上げようと実施指標があげられている。歯科衛生士はメインテナンスを通して患者の口腔内の健康に対するモチベーションを高く維持させることに注力する必要があり、それが患者の健康な高齢期を過ごす一助になると考えている。そこに、マイクロスコープが非常に役立つ。
周知のとおり、マイクロスコープは、明るく拡大した映像を動画や静止画で記録できるというをメリットがある。そのメリットを最大限活かし、口腔内診査では必ずマイクロスコープを使用する。理由は”高倍率で隅々まで診査できること”ならびに”撮影した映像を患者・歯科医師や医療スタッフと共有できること”その二点である。まず、高倍率で隅々まで行う診査は、事前にヒアリングした生活習慣内容から口腔内の状況と結びつけていくことで、リスク管理をより一層確実に行える。実際には、セルフケアの状況、間食の回数や内容、また薬の副作用が原因となるようなプラーク付着・歯肉や粘膜の状態をマイクロスコープを使用して観察する。さらに、プラークリテンションファクターである補綴装置の適合や、歯や歯肉の形態や発赤も見落とせない。長期的にリスク管理が必用な部位や、健康を維持している部位も必ず観察し撮影する。マイクロスコープを使用し、高倍率で観察することで、口腔内の小さな変化を見落としなく気づくことができる。口腔内診査が終わり次第、即座に撮影した映像を用いて患者に説明を行う。精査が必用な部位は、その映像を用いてスムーズに歯科医師と連携をとり、コンサルテーションや処置に移る準備ができる。
マイクロスコープを用いた観察とその映像を活用することで、長期的なリスク管理が行え、患者の心に寄り添えるメインテナンスが行えることを実感している。今回、実際にメインテナンス中に患者に認められた小さな変化を、マイクロスコープを活用することで早期に発見し、歯科医師と連携をとりながら、守り抜くケースを供覧いただきながら諸先生方のご指示を仰ぎたいと考えている。

略歴
2002 年　兵庫県歯科医師会付属　兵庫歯科衛生士学院　卒業
2002 年　歯科医療機器販売　ササキ株式会社　神戸支店勤務
2010 年　フリーランス歯科衛生士
2014 年　高田歯科　勤務

所属学会
日本顕微鏡歯科学会 認定歯科衛生士
日本歯周病学会 認定歯科衛生士
日本口腔インプラント学会
日本臨床歯周病学会 関西支部理事
歯科臨床研鑽会　理事

著書
「誰でも撮れるきれいで規格性のある口腔内写真」医歯薬出版株式会社　2021 年
「わかる！使える！歯科衛生士のためのマイクロスコープ」　デンタルダイヤモンド社 2021 年